

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズすてっぷ あいのうら		公表日		令和 7 年 12 月 15 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		学習・訓練・遊び、それぞれの活動ができるスペースを確保している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		人員配置基準に基づいた人数を配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			今後も個々の活動内容に適した場所の提供を行っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		衛生面に留意し、子ども達に合わせた環境調整を行っており、どこで何をやるかが明瞭化できていると思う。	引き続き環境整備に努めます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		室内環境の整理整頓を行い、子ども達が来所してから取り組む流れが明瞭かできるように配慮している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		業務がスムーズに行えるように、毎朝ミーティングを重ね、目標設定と振り返りを行っている。	今後も職員全体で話し合いを行いながら、業務改善について検討していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		年1回のアンケート調査を実施している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		定期的及び臨時的に、必要に応じて職員ミーティングを実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		現在外部評価は行ってない。今後の検討課題とする。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部研修への積極的な参加や、社内研修を定期的に実施している。	今後も引き続き参加し、職員の資質向上に努める。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		職員間で情報共有されており、専門職による支援計画も的確に作成されている。支援の見える化を図ることを目的として、プログラムの作成と公表に向けての準備を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			今後も利用者・保護者様の立場に立って計画作成を行っていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		毎朝ミーティングを開催し、職員間での情報共有を行っていく。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画書は個人記録ファイルに添付し、記録を行なう際に常に供覧出来る様にしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		保護者様、学校・相談支援事業所等からいただいた情報や発達検査結果も参考にしている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		基本的な日常生活動作や自立生活を支援するための活動・創作活動・余暇活動等で、成功体験を積んだり表現できるよう支援している。	引き続き利用者一人ひとりの特性や発達状況を踏まえながら、5領域に関する支援目標を設定していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		日々の連絡・報告を行い、各自の気付きや支援に対する目標を共通理解出来る様心掛けていく。	様々な体験を積み重ね将来に向けて必要となる力を身につけられるようにプログラムを立案していく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		研修会等で学んだことや参考書・インターネットで検索し、得た新しい活動を取り入れられるようにと考えている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		利用者個々の特性・状況に合わせて作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		終了時に時間を設けることが困難な時は、翌日に実施している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		概ね6ヶ月に一度（または必要時に）計画書の見直しを行い、内容の検討を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5			ガイドラインに基づいた活動プログラムを立案していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		子ども達が何をしたいかを選べるよう環境調整を行い、職員も柔軟な対応ができるよう心掛けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	こどもふくし協議会に参加し行政や他事業所様との連携を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		現在は行っていませんが、機会があれば実施したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	こどもふくし協議会への参加を行っている。	今後も積極的に参加を行っている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		必要に応じて個別な相談も受付けている。送迎時に直接お話しができない保護者様とは電話連絡やLINEにて情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談があった場合には、適切な対応を行うよう心掛けている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5			現在保護者会は行っていない。保護者様のご意向に配慮し、今後検討していく。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			苦情・相談があった場合には、迅速かつ適切な対応を行う。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			ブログ・お便りの発行による情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			個人情報記載の書類に関しては、鍵付きのキャビネットに保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3			行事への招待は実施していないが、地域で行われるイベントには積極的に参加している。招待については現在実施できておりませんが今後の検討課題と致します。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			マニュアル策定しており、定期的な訓練も実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			BCP策定にあたり、専門家による研修会に参加し、定期的な訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			事業所見学や契約時に、聞き取り調査を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1			保護者様に聞き取りを行い対応している。指示書がある場合には、職員間での周知徹底を図る。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5				安全計画を適切に活用するために、定期的に見直しを行っている。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5				HP上に安全計画を掲載し、周知を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5				ヒヤリハットが発生した際には、報告書を作成し、職員全体で共有している。ヒヤリハット事例を職員全体で周知し対策を検討して、繰り返しの発生が起らないように注意を払っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5				虐待に関する専門的な外部研修への参加を行い、職員自身による自己チェックリストを取入れ、日々防止に向けて意識を持ち支援に取り組んでいる。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5				利用契約時に身体拘束に関する説明を行い同意書を頂いているが、原則身体拘束は行わない。	